



個人も企業も成長する秘訣

～ワーク・ライフ・バランスのすすめ～

株式会社経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長の渥美由喜あつみなおきさんを招き、北海道中小企業家同友会とかち支部との共催でセミナーが開催されました。

ワーク・ライフ・バランス(WLB)の必要性や企業にとってのメリットなどの講演と十勝管内でWLBに取り組んでいる事業所2名のパネリストと渥美さんによるパネルディスカッションが開催されました。

講演より

◆WLBの必要性

◎2025年以降は3人に1人が要介護になるという介護ラッシュを迎えますが、仕事を持っている男性の中にも介護を背負う人が出てきています。もはや、仕事か家庭生活(育児、介護等)を選択する時代ではありません。バランスが大切です。

◎「健康、休養」「子育て、介護」「自己啓発、趣味」など質の高い生活が土台となり、質の高い仕事につながっていきます。メリハリのある仕事が生活の余裕につながります。

◎企業にとって、人口減少社会においては、制約がありながらも働く人が活躍できる職場にしていかなければ、人材確保ができなくなっていきます。一人当たりの業務量はますます増大していくことから、効率的な働き方を習慣化することが必要です。



◆WLBに取り組むには

◎中小企業の方が大企業よりWLBに取り組みやすいです。従業員との距離が近いことにより、共に課題を解決することができます。機動性、柔軟性にも富んでいるので助けたり、働きやすい雰囲気を作ることができます。

◎業務の効率化に取り組む、生み出される「時間資源」を自己研さんや生活の充実に充てるのが大切です。最近ではWLBが難しいとされる業界(マスメディア、ホテル・旅館、建設、IT企業など)ほど、取り組みを加速化させています。



◆ワーク・ライフ・マネジメントは漢方薬

◎ダイバーシティ&インクルージョン※は経営戦略として不可欠です。

◎ただし、即効薬ではなく、漢方薬。服用し続けると、強靱な企業体質になっていきます。

◎近視眼的に目先の業績向上に目を奪われていると、どうしても後回しになってしまいます。しかし、そういう企業、職場に明日はありません。

◎このことに気付けるかどうか、日本企業、職場はいま大きな分岐点に立っています。

※ダイバーシティ&インクルージョンとは、多様性(性別、国籍、年齢、個々の違い等)を受け容れ、様々な意見やアイデアを聴き入れることで、組織の競争優位性を高める「成長戦略」のこと。

パネルディスカッションより

◆十勝管内の事業所の取り組み

(株)竹中配管 代表取締役 やま だ ゆき え 山田幸恵さん

(株)竹中配管は管工事、水道施設工事を行う従業員数14名(パート含み、うち女性2名)の事業所です。

子育て中のパート従業員がおり、上司と相談しながら勤務時間や仕事量の調整をして働いています。

親の介護が必要だった正職員については、社員が協力して、介護を行いながら勤務を続けることができました。説明をしなくても家族構成がわかるなど小さい職場だからこそできることです。

定年の65歳まで働き続けることができるような職場にしていきたいです。



(株)福原 ゼネラルマネージャー せい の り ずみ 清野範純さん

(株)福原は45店のスーパーマーケットを経営、正社員475名、パート従業員1,572名の事業所です。

育児休業制度は正社員、パート従業員とも2年間取得することができ、3回取得した社員もいます。また、介護休暇はシフト制によりパート従業員が取得しやすい環境整備をしています。

日頃のコミュニケーションが重要で、困ったときには互いに支えあえる関係をつくるのが大切です。今後は男性にも育児休業を取得してほしいと考えています。



講師：渥美 由喜さん

国内外のワークライフバランス・ダイバーシティ先進企業800社以上の訪問ヒアリング、分析を行う。コンサルタント、アドバイザーとして、取組企業の推進をサポート。厚生労働省政策評価委員も務め、プライベートでは8歳、5歳の子供の育児休業を取得、現在老父の介護に奮闘中。